

日本語と韓国語の複数形接尾辞について*

- 「-たち」と「-들」を中心にして-

齊藤明美**

〈要旨〉

本稿は、まず日本語で書かれた小説と、昔話を韓国語に訳した際にみられる、日本語の「-たち」と韓国語の「-들」の用い方に関して言及し、続いて韓国の大学生が翻訳するときに誤りやすい「-들」、場面が設定された場合の韓国語の文における「-들」の位置、年齢によって異なる「-들」の用い方等について言及したものである。小説や昔話にみられる「-たち」と「-들」の用例をみると、「-たち」に比べて「-들」の接続する品詞が広範囲に渡っており、日本語に比べて韓国語の方が「-들」を用いて形式的にも複数であることを明確にしようとしている場合が多いことがわかる。また、日本語に翻訳する時に誤りやすい「-들」について調査した結果、学習歴が短くても長くても、かなり間違えていた用例があったことから、もう少し早い時期に「-たち」と「-들」の意味用法について指導する必要があることを指摘した。そして、場面が設定された場合の韓国語の「-들」の位置については、場面設定が行われると、選択した結果にはある程度の統一性がみられることがわかった。また、年齢によって異なるといわれる「-들」の用い方については、例文によって学生の回答にかなり違いがあることが明らかになった。

論文分野：日本語教育

キーワード：日本語, 韓国語, 複数形接尾辞, 「-たち」, 「-들」

1. はじめに

日本語と韓国語とは語順が似ていたり、類似した単語を用いることがあるために、韓国の大学生が日本語で作文を書く際に、母語である韓国語の干渉により誤った表現をすることが少なくない。学生が書いた作文をみると、「×姉を会う(姉に会う)」「×汽車を乗る(汽車に乗る)」といった誤用例がみられることがある。また、「×要素たち(要素)」「×勢力たち(勢力)」のような日本語の複数を表す接尾辞である「-たち」に関する誤用もみられる。これらも韓国語では「要素들」「勢力들」といった言い方が可能であるために、母語の干渉による誤りであるといえよう。そこで、ここでは日本語と韓国語の複数形接尾辞「-たち」と「-들」に関して、先行研究について述べたあと、日本語で書かれた小説「キッチン」「満月-キッチン2」と昔話である「一寸法師」「桃太郎」「かぐやひめ」を韓国語に訳した際にみら

* 이 논문은 2008년 정부(교육과학기술부)의 재원으로 한국학술진흥재단의 지원을 받아 수행된 연구임 (KRF-2008-321-A00067)

** 한림대학교 일본학과 교수, 일본어학 일본어교육학

れる、「-たち」と「-들」の用い方の特徴について述べた。続いて韓国の大学生を対象にして実施したアンケート調査の結果に基づいて、韓国の大学生が日本語を韓国語に翻訳するときに誤りやすい「-들」について言及した。次に、『朝鮮語大辞典』(p.733)に「『-들』が付される箇所はいかにして決定されるのであろうか。決定的な必然性は認められない。とにかく主語が複数であることを表現しようとする話者の内的な意志が随意に顕現するということのようなのである。そこに強いて説明を加えるならば、文全体の雰囲気をやわらげたり、発音の流れのなめらかさ等によったりするところもあるようである。」という記述があることに着目して、場面が設定された場合の韓国語の文における「-들」の位置を確認した。そして、同じく『朝鮮語大辞典』(p.733)に、「副詞に付く表現は、慣習的によく用いられるが、その他の場合は年配の者が幼い子どもに対して(例えばおばあさんが孫に対して)用いることが多いようである。」としている例文をあげ、学生たちが実際の生活の中でどの程度用いているのかについて調査した。

「2.先行研究」でも述べるが、筆者はこれまで現代語を対象とした「-たち」と「-들」の研究として、辞書による意味用法の整理、日本語で書かれた論文の韓国語訳と韓国の大学生の作文にみられる誤用例を資料とした日本語と韓国語の複数形接尾辞の用法のまとめ等を行ってきた。そこで、今回は文学作品にみられる「-たち」と「-들」の問題、及びアンケート調査の結果を報告しようと思う。アンケート調査の質問項目は、本稿で報告した質問以外に、日本語学習経験者と未経験者の間に「-들」の用い方に違いがみられるかどうかについても調査するような項目もあったが、ここでは紙面の関係上この調査結果については省略した。

以上のようにさまざまな視点からの考察をすることによって、間違い易い「-たち」と「-들」の意味用法について、より正確に理解し、今後学生たちが日本語の作文を書く際に正しく書くことができるよう指導し、韓国における日本語教育に役立てていきたいと考えている。

2. 先行研究

日本語と韓国語の複数形接尾辞の先行研究には、古くは、濱田敦(1970)があり、近年では、鄭恵先(2001、2005)、齊藤明美(2008a、2008b、2009a、2009b)、金英華(2009)等があるが、

濱田敦(1970)、齊藤明美(2008a、2008b)は、やや古い資料を扱っており、現代語の研究としては、鄭恵先(2001、2005)、齊藤明美(2009a、2009b)、金英華(2009)等がある。鄭恵先(2001)は、人称代名詞に接続する「-たち」「-ら」を使用する際の選択条件について言及し、鄭恵先(2005)は、文学作品と意識調査の分析結果に基づき、「人名詞+複数形接尾辞」に関して論及している。また、齊藤明美(2009a)は、辞書による「-たち」と「-들」の意味用法を整理するとともに、日本語で書かれた論文の韓国語訳と韓国の大学生の作文にみられる誤用例をもとに、日本語と韓国語の複数形接尾辞について述べている。また、齊藤明美(2009b)は、韓国の大学生が日本語で感想文を書く際、はじめに母語である韓国語で書き、日本語に訳した場合、直接日本語で書いた場合より誤用例が多くなることを指摘し、これは母語である韓国語からの干渉によるものであるとしている。また、金英華(2009)は、韓国の国語国文学科、英語英文学科、日本学科、中国学科の学生を対象に「-들」の使用についてアンケート調査を実施し、国語国文学

科・日本学科の学生と英語英文学科・中国学科の学生に共通点がみられることを指摘した。そして、この結果は学生が学習している外国語の文法と関係がある、としている。

3. 文学作品にみられる「-たち」と「-들」

ここでは、『キッチン』に掲載されている「キッチン」「満月-キッチン2」と『키친』に掲載されている「키친」「만월」と『일본 옛날이야기 日本のおかしな話』に掲載されている「一寸法師」「桃太郎」「かぐやひめ」の日本語と韓国語の用例をあげ、「-たち」と「-들」の用法の異同について言及する。

3.1. 小説「キッチン」「満月-キッチン2」「키친」「만월」にみられる「-たち」と「-들」

「キッチン」「満月-キッチン2」（吉元ばなな 2008 『キッチン』角川書店）の日本語と、「키친」「만월」（김난주 訳 2008 『키친』민음사）の韓国語の文章を対照的に比較しながら、「-たち」と「-들」の用例について、(1)日本語の「-たち」が韓国語の「-들」と訳されている用例、(2)日本語では「-たち」が無いのに、韓国語では「-들」と訳されている用例、(3)無生物に「-たち」を付けて擬人化した語を「-들」と訳している用例、(4)「人」「人々」「(この)人たち」を「사람들」と訳している用例、(5)形式名詞「こと」「もの」を「-들」と訳している用例についてみていく。

(1) 日本語の「-たち」が韓国語の「-들」と訳されている用例

○真昼、春らしい陽気で、外からはマンションの庭で騒ぐ子供たちの声が聞こえる。

（「キッチン」 p.26）

한낮, 대기는 봄답게 따끈하고, 밖에서는 아파트 놀이터에서 재잘대는 아이들 소리가 들려온다.

（「키친」 p.26）

これは、日本語の「-たち」がそのまま韓国語で「-들」と訳されている例であるが、この用例の他にも、「子供たち(「キッチン」 p.26) 아이들 (「키친」 p.26)」「ゲイたち(「キッチン」 p.28) 게이들(「키친」 p.28)」「君たち(「キッチン」 p.36) 너희들(「키친」 p.35)」「友人たち(「キッチン」 p.41) 친구들(「키친」 p.40)」「店の人たち(「満月-キッチン2」 p.66) 가게 사람들(「만월」 p.66)」等の用例がみられた。

(2) 日本語では「-たち」が無いのに、韓国語では「-들」と訳されている用例

○必要最小限のよく使い込まれた台所用品がきちんと並んでかかっている。（「キッチン」 p.15）

필요한 최소한의 부엌 용품들이 반듯하게 걸려 있다. (「키친」 p.15)

これは、日本語では「台所用品」となっており複数を表わす接尾辞を用いていないが、韓国語では「-들」を用いて形式的にも複数であることを明確にしている例である。この用例以外にも「品のいいもの

(「キッチン」 p.15) 품위 있는 것들(「키친」 p.15) 「タオルの位置(「キッチン」 p.22) 수건이 있는 장소들(「키친」 p.23) 「食器(「キッチン」 p.50) 그릇들(「키친」 p.49) 「星(「キッチン」 p.43 p.57) 별들(「키친」 p.42 p.55) 「まわりの人(「満月-キッチン2」 p.78) 주위 사람들(「만월」 p.75) 「草(「満月-キッチン2」 p.108) 식물들(「만월」 p.105)」等、多くの用例がみられた。

(3) 無生物に「-たち」を付けて擬人化した語を「-들」と訳している用例

○こんなに並ぶたくさんの同じようなお部屋たちを見ていたら、くらくらししてしまった。

(「キッチン」 p.9)

그렇게 많은 똑같은 방들을 보고 있자니, 어질어질 현기증이 일어났다.(「키친」 pp.9-10)

○窓辺で、かすかな明かりに浮かぶ植物たちが十階からの豪華な夜景にふちどられてそっと息づいていた。

(「キッチン」 p.24)

창가에서, 희미한 불빛에 드러난 식물들이 화려한 밤풍경에 에워싸여 소리 죽여 숨쉬고 있었다.

(「키친」 p.24)

これは、日本語が「お部屋たち」「植物たち」のように、本来は人でないものを擬人化しており、韓国語でも「-들」を用いて訳している例である。

(4) 「人」「人々」「(この)人たち」を「사람들」と訳している用例

「人」を「사람들」と訳している用例

○最近気づいたが、この家の人は買い物^が病的に好きなのだ。(「キッチン」 p.39)

요즘 들어 알았는데, 이 집 사람들은 물건 사들이기를 병적으로 좋아한다.(「키친」 p.38)

これは、日本語では「家の人」とあり、「-たち」を用いていないが、韓国語では「-들」を用いている例である。この用例以外にも「愛する人(「満月-キッチン2」 p.113) 사랑하는 사람들(「만월」 p.110)」「人(「満月-キッチン2」 pp.116) 사람들(「만월」 p.113)」等の用例がみられた。

「人々」を「사람들」としている用例

○目の前に流れてきてゆっくり止まり、人々は並んでぞろぞろ乗り込む。(「キッチン」 p.47)

눈앞으로 흘러와 천천히 멈추고, 사람들이 줄지어 올라탄다.(「키친」 p.46)

これは、日本語では「人々」という語で複数を表わし、韓国語では「-들」を用いている例であるが、この用例以外にも「その中で働いている人々(「キッチン」 p.47) 그 안에서 움직이는 사람들(「키친」 p.46)」「店の人々(「満月-キッチン2」 p.65)가게사람들(「만월」 p.61)」「ゆきかう人々(「満月-キッチン2」 p.107)오가는 사람들(「만월」 p.104)」などの用例がみられた。

「(この)人たち」を「(이) 사람들」としている用例

○信用できるのか、なにがまだひそんでいるのか、この人たちのことは聞けば聞くほどよくわからなくなった。

(「キッチン」 p.22)

믿을 수 있을까, 아직도 뭐가 숨겨져 있을까, 이 사람들에 대해서는 들으면 들을수록 알 수가 없었다.

(「키친」 p.22)

これは、日本語の「この人たち」を、そのまま「이 사람들」と訳した用例である。この用例以外にも「この人たち(「満月-キッチン2」 p.95) 이 사람들(「만월」 pp.92-93)」がみられた。

(5) 形式名詞「こと」「もの」を「-들」としている用例

○今までのことも、これからのこともしばらくだけの間、忘れられる寢床だけを待ち望んでいたのかもしれない。(「キッチン」 p.24)

지금까지의 일들과 앞으로의 일들을 잠시나마 잊을 수 있는, 그런 잠자리만 바라고 기다리고 있었는지도 모른다.(「키친」 p.25)

○彼女には、そういうことが待つ、しんとした淋しさがしみ込んでいた。(「キッチン」 p.28)

그녀한테는 그런 일들에 동반되는, 침잠된 고독이 배어 있었다.(「키친」 p.28)

○実際、そういうものはとうの昔に始末してしまっていたのだが。(「キッチン」 p.52)

실제로 그런 것들은 오래전에 정리해 버렸는데.(「키친」 p.51)

これは、日本語の形式名詞を「-들」を用いて韓国語に訳した用例であるが、ここにあげた用例以外にも、「その日一日のこと(「キッチン」 p.30) 그날 하루에 생긴 일들(「키친」 p.30)」「いろんなこと(「キッチン」 p.50) 여러 가지 일들(「키친」 p.49)」「そういうこと(「満月-キッチン2」 p.90) 그런 것들(「만월」 p.88)」「かけがえのないこと(「満月-キッチン2」 p.105) 소중한 이들(「만월」 p.102)」等、多くの用例がみられた。

以上であるが、ここにあげた用例をみると、「-들」の接続の領域は、「-たち」よりも広く、日本語では「-たち」が用いられていないのに、韓国語では「-들」を用いて形式的にも複数であることを明確にしようとしている用例が多くみられることがわかる。

3.2. 『일본 옛날이야기 日本のむかしばなし』の「-たち」と「-들」

小説の用例に続いて、『일본 옛날이야기 日本のむかしばなし』について、(1)日本語の「-たち」が韓国語の「-들」と訳されている用例、(2)日本語では「-たち」が無いのに、韓国語では「-들」と訳されている用例、(3)「村人」「村の人たち」を「마을 사람들」と訳している用例についてみていく。尚、『일본 옛날이야기 日本のむかしばなし』には、「一寸法師」「かちかち山」「桃太郎」「かぐやひめ」の4編の童話が日本語と韓国語で書かれているが、「かちかち山」には該当する用例がみられなかったため、ここでは「一寸法師」「桃太郎」「かぐやひめ」の用例をあげておく。

(1) 日本語の「-たち」が韓国語の「-들」と訳されている用例

○そのころ、都では、らんぼう者の鬼が現れて、若くて美しいむすめたちをさらっていくというさわざが、あちこちで起こっていました。(「一寸法師」 p.30)

그 무렵, 수도에는 난폭한 도깨비가 나타나 젊고 아름다운 처녀들을 납치해 간다는 소동이 여기저기에서 일어나고 있었습니다.(「一寸法師」 p.31)

○おひめ様にもしものことがあってはいけないので、大臣の家来の中でも、力じまんのさむらいたちが集められました。(「一寸法師」 p.31)

아가씨에게 만일의 일이 일어나서는 안 되기 때문에 대신의 신하 중에서도 힘에 자신이 있는 무사들이 모여졌습니다。(「一寸法師」 p.32)

○体の大きな家来たちは、一寸法師を笑いました。(「一寸法師」 p.32)

몸이 큰 신하들은 잇스보시를 비웃었습니다.(「一寸法師」 p.33)

これらの用例をみると、「-たち」の韓国語訳を「-들」としていることがわかるが、これらの用例の他に「鬼たち(「桃太郎」 p.90) 道楽び들(「桃太郎」 p.91) 「おれたち(「桃太郎」 p.106) 우리들(「桃太郎」 p.107) 「男たち(「かぐやひめ」 p.126) 남자들(「かぐやひめ」 p.127)」等がみられた。

(2) 日本語では「-たち」が無いのに、韓国語では「-들」&訳されている用例

○悪い鬼め。(「桃太郎」 p.106)

못된 도깨비들아.(「桃太郎」 p.107)

○子分をずいぶん痛めつけてくれたようだな。(「桃太郎」 p.108)

부하들을 제법 혼내준 모양이구나.(「桃太郎」 p.109)

○さらわれたむすめや子どもにまた会えた村人たちは、なみだを流して喜びました。(「桃太郎」 p.114)

납치당한 딸과 아이들을 다시 만난 마을 사람들은 눈물을 흘리며 기뻐했습니다.(「桃太郎」 p.115)

これらの用例をみると、「村人、마을 사람들」「鬼、도깨비들」「子分、부하들」「みんな、모두들」「子ども、아이들」のように、日本語には「-たち」が無いのに、韓国語には「-들」がある例であることがわかる。これらの用例をみても、韓国語の「-들」は、日本語の「-たち」に比べて、より多くの場合に用いられ、複数であることを形式的に明確にしていることがわかる。

(3) 「村人」「村の人たち」を「마을 사람들」と訳している用例

○あれが、村人を苦しめる悪い鬼たちが住む島にちがいない。(「桃太郎」 p.102)

저것이 마을 사람들을 괴롭히는 못된 도깨비들이 사는 섬임에 틀림없다.(「桃太郎」 p.103)

○そのため、村の人たちからは、「竹取のおじいさん」と呼ばれていました。（「かぐやひめ」p.118）
그 때문에 마을 사람들로부터 ‘대나무 베는 할아버지’ 라고 불렀습니다.

（「かぐやひめ」p.119）

これをみると、「桃太郎」には「村人」とあり、「かぐやひめ」には、「村の人たち」とあり、日本語は一樣ではないが、対訳韓国語は同じ「마을 사람들」となっている語があることがわかる。

これ等の用例により、日本の昔話においても「キッチン」「満月-キッチン2」の場合と同じように、日本語の「-たち」と韓国語の「-들」の用法には違いがあり、「-たち」をそのまま「-들」と訳している場合も多いが、韓国語では日本語に比べて、できるだけ「-들」を用いて複数であることを明確に示そうとしている場合も多く、ここでの調査結果は、鄭恵先(2005)を証明する形にもなった。しかし、日本語の形式名詞にも韓国語においては「-들」を付記している、といった新しい発見もあった。

以上であるが、今回の調査は、ここにあげた7作品の調査に止まったが、より客観的なデータを示すために、さらに多くの資料を分析する必要があると思われる。ここで調査対象とした作品だけでは、作者の個性や資料自体が持っている性格等もあり、用例に偏りがある可能性もあるからである。今後は、コーパス資料等の検討も考えている。

4. アンケート調査の結果にみられる「-들」の用法

次に韓国の大学生を対象に行ったアンケート調査について、調査の概要、大学生が翻訳するときに誤り易い「-들」の用法、場面が設定された場合の韓国語の文における「-들」の位置、年輩の人が子供に対して使う場合が多いといわれる「-들」を含む例文等の使用状況について述べる。

〈調査の概要〉

アンケート調査は、2009年6月に江原道にある複数の大学で実施し、日本語学習を1年以上経験した学生115名と、日本語学習の経験が全くない学生、または、学習経験があっても1年未満の学生131名の計246名を対象とした。調査は授業中に無記名で実施し、その場で回収したが、授業終了後個人的に依頼した場合もあった。

調査内容は次のようである。

- ①イラストをみて韓国語（韓国語と日本語）で説明してもらい、日本語の「-たち」と韓国語の「-들」の用い方に日本語学習経験者と未経験者の間に違いがみられるかどうか調査した。
- ②図書館で子供たちが本を読んでいるイラストを示し、よく使用する文の一つ選択してもらい、場面が設定された時の「-들」の用い方に一定の方向性がみられるかどうか調査した。
- ③若い世代は、あまり使用しないと思われる「-들」を含む例文等をあげ、実生活における大学生の使用状況について調査した。
- ④2008年に実施した調査結果をもとにして、学生たちが誤り易いと思われる韓国語の文を日本語に訳してもらい、誤用分析を行った。

以上であるが、ここでは前述したように、①の質問に対する結果については省略し、② ③ ④の調査結果について報告する。(尚、ここでの順序は④ ② ③の順になっている。)

次に、回答者の統計学的背景と日本語学習経験者の学習歴を示す。

〈表1〉回答者の統計学的背景

区分	変因	変因内容	頻度(名)	百分率(%)
	性別	男	113	45.9
		女	133	54.1
学生	学年	1学年	36	14.6
		2学年	76	30.9
		3学年	72	29.3
		4学年	62	25.2
	年齢	18-19才	56	22.8
		20-21才	70	28.5
		22-23才	90	36.6
		24才 以上	30	12.2
	学習 経験	ある	115	46.7
		ない	131	53.3
全体			246	100.0

〈表2〉日本語学習経験者の学習歴

区分	変因	変因内容	頻度(名)	百分率(%)
日本語 学習経験が ある学生	学習期間	1年以上2年未満	21	18.3
		2年以上	94	81.7
	学習開始 時期	中学校	12	10.4
		高等学校	56	48.7
		大学	47	40.9
全体			115	100.0

4.1. 大学生が翻訳するときに誤りやすい「-ㄷ」の用法

筆者は、2008年に韓国の大学生が書いた日本語の感想文にみられる誤用例を分析したが、その時の分析結果をもとに、学生たちが間違え易いと思われる「-ㄷ」を含む①~⑩の韓国語の例文を作成し、2009年に江原道にある複数の大学の日本語学習歴1年以上2年未満の学生21(18.3%)名と2年以上の学生94名(81.7%)、計115名を対象に「次の韓国語を日本語に翻訳してください。」という問題を出し、韓国語の

「-들」を正しく日本語に訳せるか、また、どんな例文が間違え易いのか、について調査した。
質問および調査結果を次に示す。

〈質問1〉

다음 한국어를 일본어로 번역해 주십시오. (次の韓国語を日本語に翻訳してください。)

- ① 마을 사람들은 새로운 생활을 선택했다.
- ② 홀라 댄스를 추고 사람들에게 기쁨을 준다.
- ③ 도전하는 소녀들의 모습에 감동했다.
- ④ 이 영화는 눈물을 흘리는 장면들이 많이 있었다.
- ⑤ 이 영화는 다른 영화들과 다르다.
- ⑥ 이러한 요소들의 구상이 잘 되어 있었다.
- ⑦ 영화에서는 사회변화에 의해 많은 갈등들이 해소되었다.
- ⑧ 현주는 사랑했던 지난날들을 회상했다.
- ⑨ 이것은 많은 사람들이 갖고 싶어 하는 집입니다.
- ⑩ 이 방들은 손님들을 위한 방입니다.

〈調査結果1〉

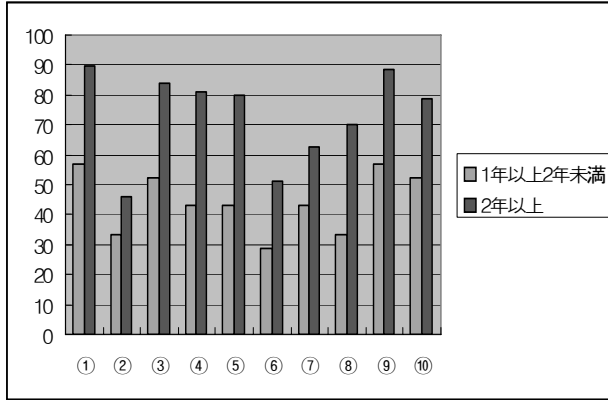
調査結果を〈表3〉〈図1〉に示す。

〈表3〉日本語学習歴1年以上2年未満と2年以上の学生の正答率

	日本語学習歴1年以上2年未満	日本語学習歴2年以上
①	12 (57.1%)	84 (89.4%)
②	7 (33.3%)	43 (45.7%)
③	11 (52.4%)	79 (84.0%)
④	9 (42.9%)	76 (80.9%)
⑤	9 (42.9%)	75 (79.8%)
⑥	6 (28.6%)	48 (51.1%)
⑦	9 (42.9%)	59 (62.8%)
⑧	7 (33.3%)	66 (70.2%)
⑨	12 (57.1%)	83 (88.3%)
⑩	11 (52.4%)	74 (78.7%)

(実数は学生数を表わし、括弧の中にパーセンテージを示した。)

〈図1〉日本語学習歴1年以上2年未満と2年以上の学生の正答率



〈表3〉〈図1〉をみると、日本語学習歴1年以上2年未満の学生に比べて、日本語学習歴2年以上の学生の正答率がかなり高いことがわかる。これは、学習歴が長いから当然の結果であるといえよう。しかし、「②홀라 댄스를 추고 사람들에게 기쁨을 준다。」「⑥이러한 요소들의 구상이 잘 되어 있었다。」の場合は、学習歴が長くても、かなり間違えた学生もいた。特に、②の場合は「×人たち(人々)」⑥においては「×要素たち(要素)」と訳した学生が多かったことは注目される。

また、日本語学習歴2年以上の学生と、日本語学習歴1年以上2年未満の学生の正答率が高い順に例文を示すと〈表4〉〈表5〉のようになる。

〈表4〉日本語学習歴2年以上の学生の正答率

順位	例文	正答率
1	마을 사람들은 새로운 생활을 선택했다.	(① 89.4%)
2	이것은 많은 사람들이 갖고 싶어 하는 집입니다.	(⑨ 88.3%)
3	도전하는 소녀들의 모습에 감동했다.	(③ 84.0%)
4	이 영화는 눈물을 흘리는 장면들이 많이 있었다.	(④ 80.9%)
5	이 영화는 다른 영화들과 다르다.	(⑤ 79.8%)
6	이 방들은 손님들을 위한 방입니다.	(⑩ 78.7%)
7	현주는 사랑했던 지난날들을 회상했다.	(⑧ 70.2%)
8	영화에서는 사회변화에 의해 많은 갈등들이 해소되었다.	(⑦ 62.8%)
9	이러한 요소들의 구상이 잘 되어 있었다.	(⑥ 51.1%)
10	홀라 댄스를 추고 사람들에게 기쁨을 준다.	(② 45.7%)

〈表5〉日本語学習歴1年以上2年未満の学生の正答率

順位	例文	正答率
1	마을 사람들은 새로운 생활을 선택했다.	(①57.1%)
2	이것은 많은 사람들이 갖고 싶어 하는 집입니다.	(⑨57.1%)
3	도전하는 소녀들의 모습에 감동했다.	(③52.4%)
4	이 방들은 손님들을 위한 방입니다.	(⑩52.4%)
5	이 영화는 눈물을 흘리는 장면들이 많이 있었다.	(④42.9%)
6	이 영화는 다른 영화들과 다르다.	(⑤42.9%)
7	영화에서는 사회변화에 의해 많은 갈등들이 해소되었다.	(⑦42.9%)
8	홀라 댄스를 추고 사람들에게 기쁨을 준다.	(②33.3%)
9	현주는 사랑했던 지난날들을 회상했다.	(⑧33.3%)
10	이러한 요소들의 구상이 잘 되어 있었다.	(⑥28.6%)

〈表4〉〈表5〉をみると、上位の「①마을 사람들은 새로운 생활을 선택했다。」(村の人たち、村の人々等) 「⑨이것은 많은 사람들이 갖고 싶어 하는 집입니다。」(たくさんの人たち、たくさんの人々等) 「③도전하는 소녀들의 모습에 감동했다。」(少女たち)は両者共に正答率が高く、あとは少しずつ異なっていることがわかる。

これらの結果をみると、日本語学習歴が短い学生の正答率が低く、日本語学習歴が2年以上であっても間違いが多くみられた用例があることがわかる。このことにより、今後はできるだけ早い時期に「-たち」と「-들」の用法について学習者が理解できるよう指導することが望ましいと思われる。

4.2. 場面が設定された場合の韓国語の文における「-들」の位置

ここでは、場面が設定された場合の韓国語の文における「-들」の位置についてみていく。

『朝鮮語大辞典』(p.733)の「-들」の説明には次のようにある。

ここに、①학생~이 모두 조용히 책을 읽고 있다。(学生たちがみな静かに本を読んでいる)という文がある。この文において、들을順次に動かし、②학생이 모두~ 조용히 책을 읽고 있다。③학생이 모두 조용히~ 책을 읽고 있다。④학생이 모두 조용히 책~을 읽고 있다。⑤학생이 모두 조용히 책을 읽고~ 있다。の文が得られる。これらの文は、すべて文法的に有効であり、들은上例文においてすべて、主語である 학생の複数を表現している。(中略)では「-들」が付される箇所はいかにして決定されるのであろうか。決定的な必然性は認められない。とにかく主語が複数であることを表現しようとする話者の内的な意志が随意に顕現するというこのようである。そこに強いて説明を加えるならば、文全体の雰囲気をやわらげたり、発音の流れのなめらかさ等によったりするところもあるようである。

(傍線部は筆者)

これをみると、「-들」が付記されている位置は、「話者の内的な意志」によって決定され、決定的な必然性は認められないということになる。では、実際に学生たちが複数であることを表現する場合、どの位置に「-들」をつけているのだろうか。この疑問を明らかにするために、江原道にある複数の大学の学生のうち、日本語学習を1年以上経験した学生115名と日本語学習の経験が全くない学生または、学習経験があっても1年未満の学生131名の計246名を対象にアンケート調査を行った。

調査方法は、学生たちが図書館で静かに本を読んでいるイラストを示して、「次の絵をみて、①~⑩の中から、あなたがよく使う文を一つ選んで下さい。」と尋ねた。このような調査をすることによって、場面設定がされた場合、「-들」を接続する位置が「話者の内的な意志」によってかなり異なるのか、それともある程度の傾向があるのかをみようとしたのである。

質問、および調査結果は次のとおりである。

〈質問2〉

다음 그림을 보고 ①~⑩ 중에서 당신이 잘 사용하는 문장을 1개 골라 주십시오.

(次の絵をみて①~⑩の中から、あなたがよく使う文を1つ撰んでください。)



(イラストは、国際交流基金日本語国際センターの「みんなの教材」による。)

- ① 학생들이 모두 조용히 책을 읽고 있다.
- ② 학생이 모두들 조용히 책을 읽고 있다.
- ③ 학생이 모두 조용히들 책을 읽고 있다.
- ④ 학생이 모두 조용히 책들을 읽고 있다.
- ⑤ 학생이 모두 조용히 책을 읽고들 있다.
- ⑥ 학생들이 모두 조용히들 책을 읽고 있다.
- ⑦ 학생들이 모두들 조용히 책을 읽고 있다.
- ⑧ 학생들이 모두 조용히 책들을 읽고 있다.
- ⑨ 학생들이 모두들 조용히 책들을 읽고 있다.
- ⑩ 학생들이 모두들 조용히들 책들을 읽고 있다.

(①~⑤は『朝鮮語大辞典』にある例文であり、⑥~⑩は筆者が独自に作成した文である。)

〈調査結果2〉

調査結果を〈表6〉に示す。

〈表6〉「-들」の接続に関する学生の意識

区分	N	%
①	203	82.5%
②	1	.4%
③	2	.8%
⑤	2	.8%
⑥	4	1.6%
⑦	20	8.1%
⑧	10	4.1%
⑨	4	1.6%
合計	246	100.0%

〈表6〉をみると、①「학생들이 모두 조용히 책을 읽고 있다」を選択した学生が203名（82.5%）いたことがわかる。これは、他の用例を選択した学生に比べて圧倒的に多い。このことによって「-들」の位置は「話者の内的な意志」によって決定されるとされながらも、各自がそれぞれ勝手に判断するというよりは、場面設定が行われれば、それに応じて「-들」の接続する位置がおのずと決定され、選択した結果にはある程度の統一性がみられることがわかる。また、⑦「학생들이 모두들 조용히 책을 읽고 있다」を選んだ学生が20名（8.1%）、⑧「학생들이 모두 조용히 책들을 읽고 있다」を選択した学生が10名（4.1%）であったこと、あるいは④「학생이 모두 조용히 책들을 읽고 있다」と⑩「학생들이 모두들 조용히들 책들을 읽고 있다」を選択した学生がいなかったことは注目される。これは、④は、学生は単数で本が複数であるという印象が強く、⑩は、「-들」の使用が多すぎて不自然な感じがすることが原因であるのではないかと思われる。

4.3. 年輩の者が子供に対して使う場合が多いといわれる「-들」を含む例文等の使用状況

『朝鮮語大辞典』（p.733）に、次のような記述がある。

おもに副詞（形）や動詞・形容詞の活用形などについて文の主語が複数であることを表す

어서~ 오십시오（皆さん）ようこそ、皆さんどうぞ

이리 와서~ 놀아요（皆さん）こっちに来て遊びましょう（遊んでください）

안녕히~ 가십시오（皆さん）さようなら

곧 냇가로 내려~ 갔다（人々は）すぐに川辺のほうへ降りて行った

좌중은 멍하니~ 앉아서...そこに集まった人々はみなぼんやりと座って...

어떻게~ 하고 있는 것일까?（皆は）どうしているだろうか?

이리 와서 놀자~ (皆) こちらに来て遊ぼう
 떡이나 먹어라~ (みんな) 餅でも食べなさい
 모두 이쁘다~ みんなかわいい
 우리는 몸이 튼튼~ 하다 私たちは健康そのままだ

* 上例中副詞に付く表現は慣習的によく用いられるが、その他の場合は年輩の者が幼い子どもに対して(例えばおばあさんが孫に対して)用いることが多いようである。

以上であるが、「어서~ 오십시오, 안녕히~ 가십시오」等は、慣習的によく用いられ、「이리 와서 놀자~、떡이나 먹어라~、모두 이쁘다~」等は、年輩の者が幼い子どもに対して用いることが多いと思われる。そこで、ここでは、大学生246名を対象に「-들」の例文、1~10を示し、①いつも使う ②よく使う ③時々使う ④あまり使わない ⑤全然使わない、の中から一つ選んでもらい、学生たちが普段これらのことばをどの程度使用しているかについて調査した。

質問と調査結果は次のとおりである。

〈質問3〉

다음 문장을 읽고 ①-⑤ 중에서 하나 선택해 주십시오.
 (次の文を読んで、①-⑤の中から一つ撰んでください。)

- ① 늘 사용한다 (いつも使う) ② 자주 사용한다 (よく使う) ③ 가끔 사용한다 (時々使う)
 ④ 그다지 사용하지 않는 (あまり使わない) ⑤ 전혀 사용하지 않는다 (全然使わない)

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 어서들 오십시오. | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 2. 이리 와서들 놀아요. | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 3. 안녕히들 가십시오. | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 4. 곧 냇가로 내려들 갔다. | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 5. 좌중은 멍하니들 앉아서... | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 6. 어떻게들 하고 있는 것일까? | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 7. 이리 와서 놀자들. | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 8. 떡이나 먹어라들. | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 9. 모두 이쁘다들. | (① ② ③ ④ ⑤) |
| 10. 우리는 몸이 튼튼들 하다. | (① ② ③ ④ ⑤) |

〈調査結果3〉

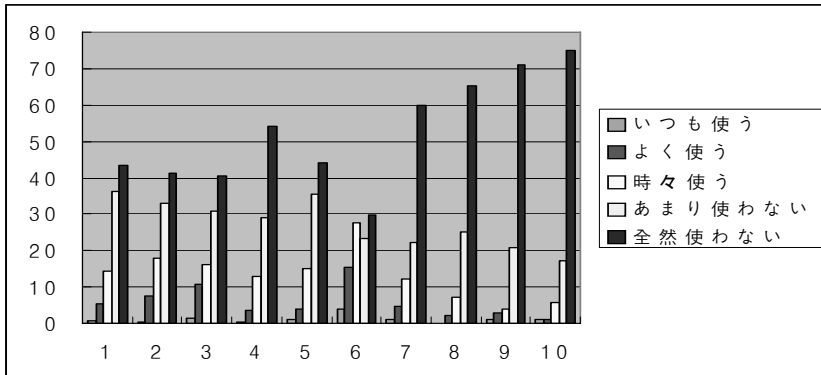
調査結果を〈表7〉〈図2〉に示す。

〈表7〉 「-들」の用例の使用に関する大学生の意識

例文	いつも使う	よく使う	時々使う	あまり使わない	全然使わない	合計
1	2 (8%)	13 (5.3%)	35 (14.2%)	89 (36.2%)	107 (43.5%)	246 (100%)

2	1 (.4%)	19 (7.7%)	44 (17.9%)	81 (32.9%)	101 (41.1%)	246 (100%)
3	4 (1.6%)	6 (10.6%)	40 (16.3%)	76 (30.9%)	100 (40.7%)	246 (100%)
4	1 (.4%)	9 (3.7%)	32 (13.0%)	71 (28.9%)	133 (54.1%)	246 (100%)
5	3 (1.2%)	10 (4.1%)	37 (15.0%)	87 (35.4%)	109 (44.3%)	246 (100%)
6	10 (4.1%)	38 (15.4%)	68 (27.6%)	57 (23.2%)	73 (29.7%)	246 (100%)
7	3 (1.2%)	11 (4.5%)	30 (12.2%)	55 (22.4%)	147 (59.8%)	246 (100%)
8	0 (0%)	5 (2.0%)	18 (7.3%)	62 (25.2%)	161 (65.4%)	246 (100%)
9	3 (1.2%)	7 (2.8%)	10 (4.1%)	51 (20.7%)	175 (71.1%)	246 (100%)
10	3 (1.2%)	3 (1.2%)	14 (5.7%)	42 (17.1%)	184 (74.8%)	246 (100%)

〈図2〉 「-들」の用例の使用に関する大学生の意識



〈表7〉〈図2〉をみると、例文によって学生の回答がかなり異なっていることがわかる。7. 「이리 와서 놀자들。」 8. 「떡이나 먹어라들。」 9. 「모두 이쁘다들。」 10. 「우리는 몸이 튼튼들 하다。」のように、「全然使わない」が59.8%以上のものもあれば、6. 「어떻게들 하고 있는 것일까?」のように、「全然使わない」が29.7%と少ないものもある。これは、7. 8. 9. は、「年輩の者が幼い子どもに対して（例えばおばあさんが孫に対して）用いることが多い」ことばであるので、あまり使用しないと思われる。もし使う機会があるとすれば、学生より年下の者に（例えば学生が子供たちに対して）用いるようである。また、10. については、学生にとっては、このような話題で話すような状況があまりないとも思われる。しかし、6. は比較的よく使用しているようである。そして、1.2.3. については、7. 8. 9. 10. に比べると、よく用いていることが明らかになった。1.や3.は、家に客が来た場合等に用いるようである。

5. おわりに

本稿は日本語と韓国語の複数を表わす接尾辞である、「-たち」と「-들」について述べたものである。まず先行研究について述べたあと、日本の文学作品のうち、小説「キッチン」「満月-キッチン2」と、昔話「一寸法師」「桃太郎」「かぐやひめ」について、これらの作品を韓国語に訳した文章と対照的に比較し、「-たち」と「-들」の用い方の異同について言及した。

続いて、韓国の大学生に対するアンケート調査の結果に基づいて、学生が翻訳するときに誤りやすい「-들」、場面が設定された場合の韓国語の文における「-들」の位置、若い世代にはあまり用いられないと考えられている「-들」を含む例文等に関する学生たちの使用状況について言及した。

まず、小説「キッチン」「満月-キッチン2」と「一寸法師」「桃太郎」「かぐや姫」にみられる「-たち」と、韓国語の訳本にみられる「-들」の用例をみると、「-たち」に比べて「-들」の接続する品詞は広範囲に渡っており、日本語の「-たち」をそのまま「-들」と訳している場合も多いが、日本語では「-たち」を用いないのに韓国語では「-들」を用いて、複数であることを形式的に明確にしようとする場合が多々あることがわかった。また、日本語の形式名詞にあたる「こと」「もの」の韓国語が「일들」「것들」となっていることは注目される。但し、ここでは日本の小説2作品と、昔話、3作品の用例をあげるに止まったので、より客観的で正確なデータを得るために今後もっと多くの資料を対象とし、さらなる調査をしていこうと考えている。

次に、アンケート調査の結果に基づいて言及したが、まず、韓国の大学生が韓国語を日本語に翻訳する時に誤りやすい「-들」について調査した結果、日本語学習歴1年以上2年未満の学生に比べて、日本語学習歴2年以上の学生の方が正答率がかなり高いことがわかった。これは、予想できる当然の結果であるが、学習歴が長くても、かなり間違えていた用例があったことは注目される。また、日本語学習歴が2年未満の学生の正答率があまり高くない用例も多くみられたことから、できるだけ早い時期に日本語の「-たち」と韓国語の「-들」の意味用法の異同について指導し、学習者が正しく理解できるよう指導する必要があることを指摘した。

次に、『朝鮮語大辞典』(p.733)に「『-들』が付される箇所はいかにして決定されるのであろうか。決定的な必然性は認められない。とにかく主語が複数であることを表現しようとする話者の内的な意志が随意に顕現するということのようなものである。そこに強いて説明を加えるならば、文全体の雰囲気をやわらげたり、発音の流れのなめらかさ等によったりするところもあるようである。」という記述があることに注目し、場面が設定された場合の「-들」の位置の確認に関する調査を行った。その結果、場面が設定された場合の「-들」の位置は、各自がそれぞれ勝手に判断するというよりは、場面に応じて「-들」の位置がおのずと決定し、大学生が選択した結果には、かなりの確率で統一性がみられることが明らかになった。

また、『朝鮮語大辞典』(p.733)に、「副詞に接続する表現は、習慣的に用いられるが、その他の用例は、(例えば、おばあさんが子供に対して用いる場合のように)、年輩の人が子供に対して使う場合が多い」という記述に着目して、学生には比較的使用する機会が少ないと思われる「-들」の例文を含む、1~10の例文(『朝鮮語大辞典』(p.733)に記載されている例文)を示し、①いつも使う ②よく使う ③時々使う ④あまり使わない ⑤全然使わない、の中から一つ選んでもらい、使用状況に関する調査を行った。

その結果、例文によって使用状況にかなりの差があることが明らかになった。まさに、ことばは、「誰が、誰に、どこで、何のために」用いる語であるかによって使用頻度が異なるといえよう。

【参考文献】

- 濱田敦(1970)『朝鮮資料による日本語研究』岩波書店 pp.170-171
- 鄭恵先(2001)「複数を表す『たち』と『ら』の使用における選択条件-シナリオの分析結果を中心として-」『社会言語科学』第4巻第1号 社会言語科学会 pp.58-67
- _____ (2005)「日本語と韓国語の複数形接尾辞の使用範囲-文学作品と意識調査の分析結果から-」『日本語科学』第17号 国立国語研究所 pp.27-46
- 齊藤明美(2007)『일본 옛날이야기』(日本のむかしばなし) 다락원
- _____ (2008a)「『交隣須知』の複数形接尾辞について-人を表す複数形接尾辞を中心に-」『日本語文化』第13輯 韓国日本語文化学会 pp.119-138
- _____ (2008b)「日本語と韓国語の数量を表す表現について-『交隣須知』を中心に-」『日本語学研究』第24輯 韓国日本語学会 pp.51-67
- _____ (2009a)「『たち』と『-들』の意味用法について-論文と感想文にみられる誤用例を中心に-」『日語日文学研究』第69輯1巻日本語学・日本語教育学篇 日語日文学会 pp.184-203
- _____ (2009b)「A Study of '-tachi' and '-tul'」『2009 Summer Conference Proceedings』ISCS (국제총스키학회) pp.55-65
- Kim, Young-Wha(2009)「The Syntax of the Plural Marker -tul and Classifiers in Korean」『Korean Journal of Linguistics』34-4 pp.829-852
- 吉元ばなな(2008)『キッチン』角川書店
- 요시모토 바나나 (2008)『키친』민음사
- 大阪外国語大学朝鮮語研究室編(1986)『朝鮮語大辞典』角川書店
- <イラスト>
- 国際交流基金日本語国際センターが作成した「みんなの教材」にあるイラストを許可を得て使用した。

〈 요 지 〉

일본어와 한국어의 복수형 접미사에 대하여

- 「-たち」와 「-들」을 중심으로-

본 논문은 먼저, 일본어 소설과 옛날이야기를 한국어로 번역 할 때 보여 지는 일본어 「-たち」와 한국어 「-들」의 사용방법에 대하여 언급하였으며, 이어서 한국대학생들이 번역 할 때 틀리기 쉬운 「-들」에 대하여, 그리고 장면이 설정되어 있는 경우, 한국어 문장에 있어서 「-들」의 위치와 연령에 따라 다른 「-들」의 사용방법에 대하여 언급한 것이다. 소설과 옛날이야기에서 볼 수 있는 「-たち」와 「-들」의 용례에서 살펴보면 「-たち」에 비해 「-들」은 접속하고 있는 품사가 두루 광범위하여, 일본어 보다 한국어가 「-들」을 사용하여 형식적으로도 복수임을 명확히 하고 있는 경우가 많음을 알 수 있었다. 또한, 일본어로 번역 할 때 틀리기 쉬운 「-들」에 대하여 조사한 결과, 학습기간이 길고 짧음에 상관없이 상당히 틀린 용례가 있다는 점으로부터 보다 빠른 시기에 「-たち」와 「-들」의 의미용법에 대해서 지도할 필요성이 있음을 지적하였다. 그리고 장면이 설정된 경우 「-들」의 위치에 대해서는, 장면설정이 되어진 경우 선택한 결과에 있어서는 어느 정도의 통일성을 보이고 있음을 알 수 있었다. 또한, 연령에 따라 다른 「-들」의 사용방법에 대해서는 예문에 따라 대학생들의 대답은 상당히 다름이 확인되었다.

■ 사이트 아케미(齊藤明美)

한림대학교 일본학과 교수

saito@hallym.ac.kr

- 投稿日 : 2009년 11월 30일
- 審査開始 : 2010년 2월 2일
- 審査完了 : 2010년 2월 22일
- 掲載確定 : 2010년 3월 4일